

ATOM

住まいの飾り職人
ATOM
アトムリビンテック株式会社



IR NEWS

第57期 中間報告書

平成22年7月1日～平成22年12月31日



経営理念

「住まいの飾り職人」がつくり出す
独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓

「独り歩きのできる商品づくり」

社是

「創意・誠実・進取」

社名の由来

創業者は江戸指物（鏡台、茶箆筒、長火鉢等）の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「アトム」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要も無い「リビングテック」の他に、正しく「技術に生きる＝リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。



株主の皆様へ

第57期第2四半期累計期間の業績をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社「第57期中間報告書」をお届けするに当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間における当社が位置する住宅市場は、各種住宅取得支援政策の拡充効果を背景に、新設住宅着工戸数に緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、雇用および所得環境に依然として厳しさが残存していることから、本格的な回復には至らない状況で推移いたしました。

こうした状況の下、当社は市場価格の適正化に努めるとともに、販売費および一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じてまいりました。その一方で、昨年10月には、東京「アトムCSタワー」および大阪「アトム住まいの金物ギャラリー」の2拠点において「秋の内覧会」を開催し好評を博すなど、積極的な商品展開と販路の拡大に懸命の努力を重ねてまいりました。

こうした取り組みの結果、当第2四半期累計期間の業績は売上高34億25百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益34百万円（前年同期比1,030.7%増）、経常利益62百万円（前年同期比89.9%増）、四半期純利益59百万円（前年同期比111.6%増）となりました。

当社といたしましては、住宅市場の緩やかな持ち直しの動きは引き続き維持されるものの、早期に劇的な回復は望めないとの認識に立って、第7次中期経営計画に基づく経営組織の改革による次代に向けた基盤の構築を基本方針として、厳しい市場環境に即応可能な営業体制の強化に努めてまいります。また、春秋2回の展示会を通して新たな展開を図りつつ、「アトムCSタワー」で住生活に関わる広範囲な分野にわたるイベントやセミナーを積極的に展開し、新規事業と既存事業のさらなる相乗効果の実現を図ってまいります。

平成23年3月



代表取締役社長 高橋良一



市場環境の好転を確実に成長の糧とし、 早期の業績回復に努めてまいります。



当第2四半期累計期間の経営環境は
いかがでしたか。



**第2四半期以降、住宅市場においては
経営環境が上向き状況で推移いたしました。**

前年度は住宅着工戸数そのものが史上最悪という厳しい状況の中で推移いたしましたが、環境が一気に好転することはないにしても、多少なりとも改善の兆しが見られるだろうとの認識に立って当期を迎えました。期初の7～8月頃は夏場の閑散期ということもあって出足が振るわない状況でスタートを切り、結果として第1四半期は思うような推移とはなりませんでした。第2四半期に入り、新規着工戸数をはじめ、確認申請件数、確認交付件数も上向き状況となり、月を追うごとに期初において想定した目標を上回る形で推移することができました。こうした経営環境の好転を受けて、当第2四半期累計期間を終えた段階で、当初の目標に近いところまで業績を押し上げることができました。しかしながら、住宅市場は所得と雇用が安定し、あまねく将来性が望めるような環境ができてこないと本格的な回復はなかなかむずかしく、ここしばらくは厳しい状況が続くと考えております。



この間、どのような取り組みを行ってきましたか。



**販売部門の再編成による組織改革が、
着実に成果を上げつつあります。**

当社は、「経営環境に左右されにくい事業基盤の確立」を経営目標に掲げ、第7次中期経営計画を推進いたしております。

すが、こうした取り組みの一環として実施いたしました、販売部門の再編成を目的とした世代交代、若手人材の登用と業務部門の再編成を目的とした管理部の立ち上げなど、経営組織の改革がここに来て効果を上げつつあります。また、市場価格が下落する中、恒常化するお客様からのコストダウン要請に対しましても覚悟して臨んでいかなければならない状況であることに変わりはありません。このため、上海阿童木建材商貿有限公司からの調達をはじめとした購買面での自助努力による売上総利益率の向上に加え、販売費や一般管理費の圧縮など、管理可能な諸施策を実行し着実に成果として実を結びつつあります。



戦略別の取り組みについてお聞かせください。



**年2回の展示会を軸に、新規事業と既存事業の
相乗効果を高める事業展開を行いました。**

商品戦略面では、昨年開催いたしました「秋の内覧会」におきまして、訴求する商品を絞り込み、ソフトクローズの機構をさまざまな分野に導入した商品のご提案を行いました。こうした商品群は利便性や快適性を求める市場の動きに応えるものであり、多くのお客様からご好評いただき、好調な動きを示しております。また、商品構成の再構築という観点から、流通在庫とのバランスを図りながら、シリーズ商品の集約化を進める一方、福祉施設や高齢者介護施設、公共施設に対する内装金物の提供についても、耐久性の高い、使い勝手のよい商品開発を積極的に進めてまいりました。

市場戦略としては、販売部門再編成との関連から、ベテランの営業マンによって構成される販売促進グループを営業本部直轄で立ち上げ、積極的な営業支援を展開いたしました。こうした取り組みの結果、特販事業部や卸売事業部の成果として、次第に反映される状況となっております。また、「アトムCSタワー」におきましては、住宅やインテリアに関わるイベントやセミナーを積極的に展開したこと、並びに1階エントランスのショップをリニューアルしたこともあり、来館者数が飛躍的に増加いたしました。今後とも、当社といたしましては、「アトムCSタワー」を新規事業と既存事業の相乗効果を高めるリアルビジネスのコントロールタワーとして位置づけ、新たなビジネスチャンスの創出に取り組んでまいります。

情報システム戦略面では、SNSとして立ち上げた「インテリアファン」の充実に注力してまいりました。また、前期において出店した「楽天」などを始めとする大手ポータルサイトでは、アンテナショップ的な性格を活かしたさまざまなトライを行っております。今後とも当社では、中長期的な市場動向をリアルタイムで把握するとともに、実際の商品の動きをリサーチする観点から、オンラインショップの充実に力を入れるべく準備を進めております。



第3四半期以降の取り組みについて
お聞かせください。



**市場環境に左右されにくい基盤づくりに
積極的に取り組んでまいります。**

第2四半期で示された経営環境の好転については、第3四半期以降においても同様の推移が見込めるものの、第4四半期以降については、未だ不透明な状況となっております。幸いにも、当社の場合、大手の需要家のお客様において、新たな需要を喚起する案件や商品化に関わる案件が出てきており、ある程度、市場環境に左右されることなく着実に前進する余

地があると判断いたしております。こうした状況の下で、「春の新作発表会」を迎えるわけですが、ここにおいては「秋の内覧会」で好評を博したソフトクローズ関連商品をさらに拡充させ、市場への浸透を図っていかうということで準備を進めております。加えて「アトムCSタワー」におきましては、快適な住環境とエコロジーの融合を目指した、新たな取り組みに向けた準備を進めております。

また、第7次中期経営計画に基づく、経営組織の改革による次代に向けた基盤の構築を基本方針として、厳しい市場環境に即応可能な営業体制の構築を目指し、現場レベルでの営業部隊の部門再編、世代交代に向けた取り組みをさらに強めてまいります。



株主の皆様へのメッセージを
お願いいたします。



**配当の維持を最大のテーマに、
株主価値の向上を目指してまいります。**

当社におきましては、株主の皆様の温かなご支援を賜りつつ、何とか成長の兆しを感じられる状況を迎えつつあります。こうした株主の皆様のご支援にお応えするためにも、配当の維持を最大のテーマに、早期の業績回復に努めてまいります。こうした観点から、第2四半期累計期間において10円、通期では20円の配当を今後も維持していきたいと考えております。

また、当社は、定款の一部を変更し、監査役会と会計監査人の設置を伴うコーポレート・ガバナンスの一層の強化を図りました。これにより、経営に緊張感を持たせ、透明性を高めるとともに当社の会議体における活性化が図られ、ひいては株主価値の向上に寄与すると考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも、当社の経営理念および経営方針に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



商品の提案力を高めるソフトクローズ機構の進化を目指して

「独り歩きのできる商品づくり」を社訓に掲げる当社では、「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」づくりを目指しております。こうした観点から、GKインダストリアルデザインとのコラボレーションによる「CASARL（カサル）」シリーズの投入や、ユニバーサルデザインを採用した「快適提案品シリーズ」のラインナップ強化に努めてまいりました。こうした取り組みの一環として、当社は住まいの快適性と利便性を実現するソフトクローズ機構をさまざまな分野に導入し、お客様からご好評いただいております。今回は、ソフトクローズ機構に着目し、当社のモノづくり精神をご紹介します。



開発担当者の視点

営業本部
営業設計グループ主任
飯島弘久



これまで当社では、主力商品でもあります引戸システムにソフトクローズ機構をいち早く採用し、お客様から一定の評価を頂戴してまいりました。また、これ以外にも取り付けしやすい引き出し用のソフトクローズなど、ワンランク上の使い心地を実感していただける商品を開発してまいりました。その後、バリアフリーやインテリア性を求める市場ニーズやエンドユーザー様の関心が高まる中、性能の進化と幅広い応用展開を目指した商品開発に取り組んでまいりました。その結果、2010年「秋の内覧会」では、新たに「跳ね上がり抑制機構付き」や「戸先・戸尻両側ソフトクローズ」など、市場に先行する形で新製品をご提案することができました。今回、特に引戸ソフトクローズ機構（引戸の閉まり際を速度を緩め、静かにゆっくりと閉じる機能）のバリエーションを数多く展示いたしました。当社製品開発の優位性を実感していただけたのではないのでしょうか。当社では、今後もソフトクローズ機構の開発に一段と力を入れ、提案力のある商品の強化に努めてまいります。

営業担当者の視点

当社の関連市場である住宅市場は、住宅着工戸数が低迷するなど、非常に厳しい状況となっております。こうした状況の下、当社は、「秋の内覧会」、「春の新作発表会」といった連続性に留意した販売活動に力を入れてまいりました。こうした当社の展示会に、お客様が新商材を求めてご来場くださることを真摯に受け止め、展示会でお客様から頂戴したご意見やご提案を採り入れ、よりご満足いただける製品に仕上げるのが私たちの使命であると、改めて肝に銘じております。「秋の内覧会」では、数多くのソフトクローズ導入製品を参考出品も含めてご紹介させていただきましたが、「春の新作発表会」では、さらに進化した新製品としてご紹介できるよう準備を進めているところでございます。今後は、単なるソフトクローズ機構の導入にとどまらず、静音性や機能性、施工性、インテリア性、操作性、高級感、快適感などに配慮した、多様なバリエーションのソフトクローズ機構導入製品を開発し、お客様とともに現状を打破する製品づくりを目指してまいります。

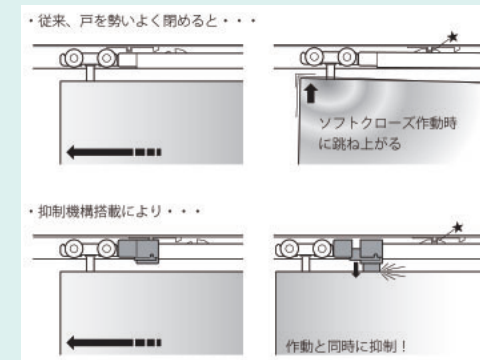
特販事業部
次長
山口 俊



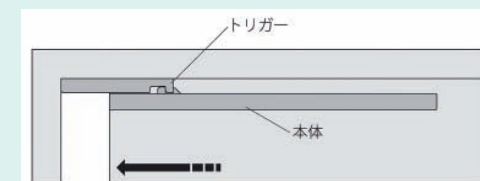
卸売事業部
課長
関内和貴



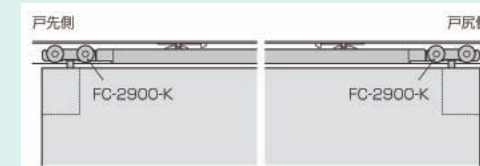
ソフトクローズ ～バリエーション例～



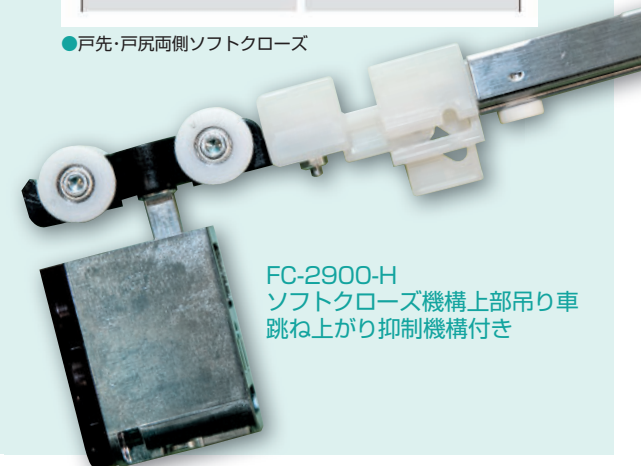
●跳ね上がり抑制機構付きソフトクローズ



●下荷重引戸ソフトクローズ後付けタイプ



●戸先・戸尻両側ソフトクローズ

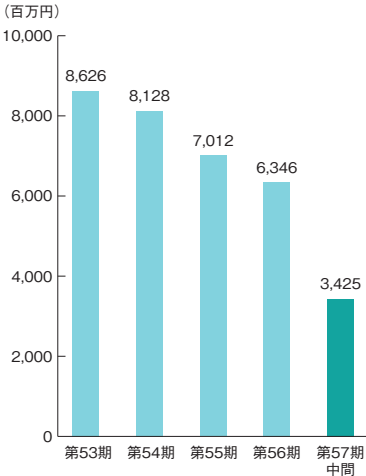


FC-2900-H
ソフトクローズ機構上部吊り車
跳ね上がり抑制機構付き

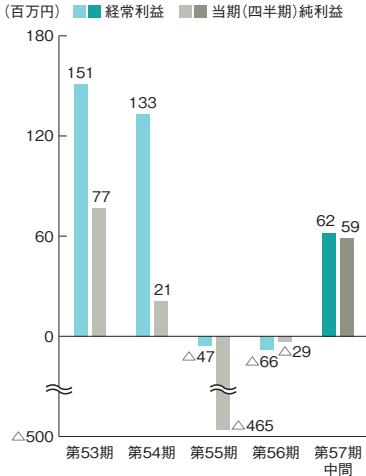


業績の推移

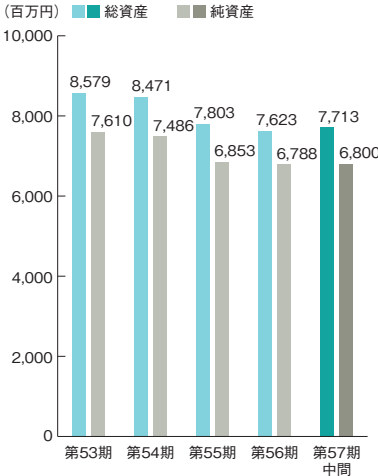
売上高



経常利益／当期(四半期)純利益



総資産／純資産



主要経営指標

	第53期	第54期	第55期	第56期	第57期中間
売上高営業利益率(%)	1.1	0.3	△1.6	△2.0	1.0
総資本営業利益率〔ROA〕(%)	1.1	0.2	△1.3	△1.6	0.4
自己資本利益率〔ROE〕(%)	1.0	0.3	△6.5	△0.4	0.9
流動比率(%)	712.4	736.4	714.8	938.2	760.5
固定比率(%)	52.9	49.8	51.7	48.3	50.8
自己資本比率(%)	88.7	88.4	87.8	89.1	88.2
1株当たり純資産額(円)	1,854.0	1,823.7	1,717.6	1,701.5	1,704.3
1株当たり当期(四半期)純利益又は純損失(△)(円)	18.9	5.3	△115.5	△7.4	15.0
1株当たり(中間)配当額(円)	20.00	20.00	20.00	20.00	10.00
配当性向(%)	106.0	374.5	—	—	66.6

※ 第55期・第56期の配当性向について
当期純損失であるため算定しておりません。



四半期財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

期 別 科 目	前第2四半期累計期間 (自 平成21年 7 月 1 日 至 平成21年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年 7 月 1 日 至 平成22年12月31日)	前期 (自 平成21年 7 月 1 日 至 平成22年 6 月30日)
売上高	3,339,049	3,425,693	6,346,396
売上原価	2,441,761	2,489,624	4,621,439
売上総利益	897,287	936,068	1,724,956
販売費及び一般管理費	894,239	901,601	1,851,128
営業利益又は営業損失 (△)	3,048	34,466	△ 126,171
営業外収益	30,129	28,466	59,318
営業外費用	38	—	38
経常利益又は経常損失 (△)	33,138	62,932	△ 66,891
特別利益	210	—	34,014
特別損失	6,141	1,786	8,611
税引前四半期(当期)純利益又は純損失(△)	27,208	61,145	△ 41,488
法人税、住民税及び事業税	103	1,234	1,365
法人税等調整額	△ 1,211	△ 9	△ 13,421
四半期(当期)純利益又は純損失(△)	28,316	59,921	△ 29,432

四半期
損益計算書



四半期財務諸表



(単位：千円未満切捨て)

期 別	当第2四半期 会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年6月30日)
科 目		
(資産の部)		
流動資産		
現金及び預金	1,595,349	1,870,572
受取手形及び売掛金	1,905,425	1,565,567
有価証券	286,730	387,810
商品	420,700	447,847
貯蔵品	—	12,936
その他	60,407	62,414
貸倒引当金	△ 5,920	△ 3,453
流動資産合計	4,262,691	4,343,693
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,138,628	1,167,042
工具、器具及び備品（純額）	124,908	110,183
土地	1,027,767	1,027,767
その他（純額）	1,243	1,317
有形固定資産合計	2,292,547	2,306,310
無形固定資産	28,472	35,406
投資その他の資産		
投資有価証券	1,017,316	820,118
その他	120,305	119,204
貸倒引当金	△ 7,545	△ 1,632
投資その他の資産合計	1,130,075	937,690
固定資産合計	3,451,096	3,279,406
資産合計	7,713,788	7,623,099

(単位：千円未満切捨て)

期 別	当第2四半期 会計期間末 (平成22年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年6月30日)
科 目		
(負債の部)		
流動負債		
買掛金	449,249	350,638
未払法人税等	3,711	4,961
その他	107,526	107,371
流動負債合計	560,487	462,972
固定負債		
退職給付引当金	185,342	185,063
役員退職慰労引当金	163,637	179,345
その他	4,307	6,893
固定負債合計	353,286	371,303
負債合計	913,774	834,275
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
利益剰余金	6,298,202	6,278,179
自己株式	△ 64,475	△ 64,475
株主資本合計	6,807,716	6,787,693
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△ 7,702	1,130
評価・換算差額等合計	△ 7,702	1,130
純資産合計	6,800,014	6,788,824
負債純資産合計	7,713,788	7,623,099



四半期財務諸表

(単位：千円未満切捨て)

科 目	期 別	前第2四半期累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)			当第2四半期累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年12月31日)			前期 (自 平成21年7月1日 至 平成22年6月30日)		
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,626			△ 84,191			184,146		
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 130,981			△ 150,561			△ 5,813		
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 39,945			△ 40,470			△ 79,891		
現金及び現金同等物の増加(△減少) 額		△ 169,300			△ 275,223			98,441		
現金及び現金同等物の期首残高		1,772,130			1,870,572			1,772,130		
現金及び現金同等物の四半期末(期末) 残高		1,602,830			1,595,349			1,870,572		

Point 営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前四半期純利益61百万円、資金流出ではない減価償却費83百万円、仕入債務の増加額98百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、売上債権の増加額345百万円等によるものです。

Point 投資活動によるキャッシュ・フロー

商品開発等の金型取得で有形固定資産の取得による支出51百万円等によるものです。

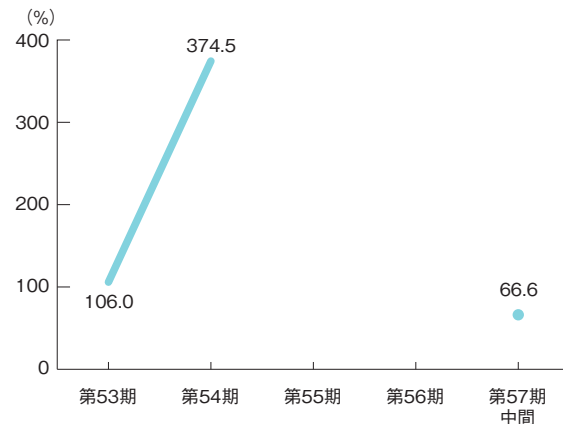
Point 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額40百万円によるものです。



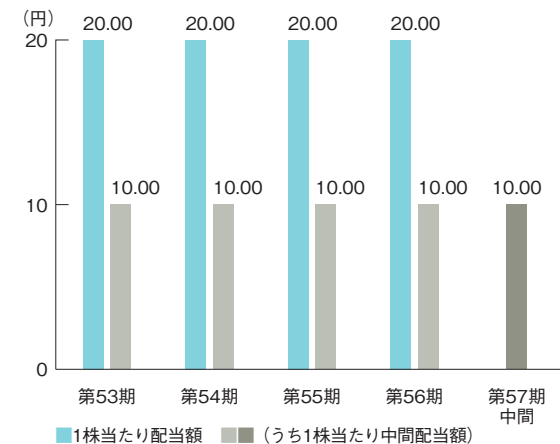
配当状況

● 配当性向



(注) 第55期・第56期について
当期純損失であるため、配当性向は算定しておりません。

● 1株当たり配当額

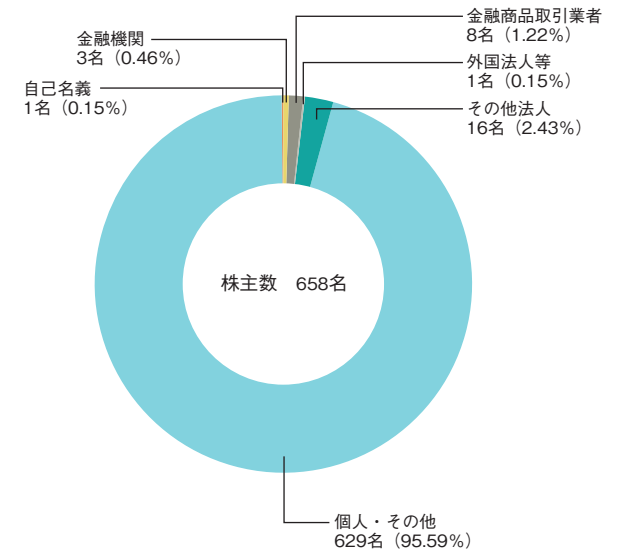


株式の状況 (平成22年12月31日現在)

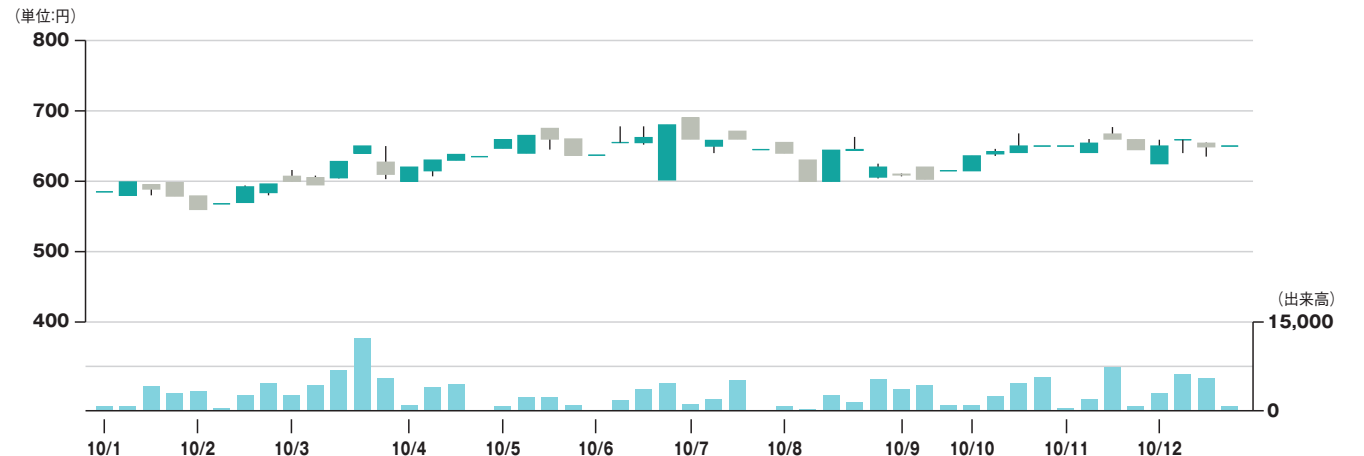
発行可能株式総数 15,420,000株
発行済株式の総数 4,105,000株
株主数 658名
大株主(上位10名)

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高 橋 不 動 産 株 式 会 社	985,440	24.00
高 橋 良 一	610,000	14.85
アトムリビンテック従業員持株会	343,660	8.37
アトムリビンテック取引先持株会	250,400	6.09
高 橋 快 一 郎	183,000	4.45
高 橋 寿 子	154,000	3.75
大 塚 李 代	137,000	3.33
アトムリビンテック株式会社	115,117	2.80
佐 藤 俊 夫	90,200	2.19
磯 川 産 業 株 式 会 社	81,500	1.98

● 株主の所有者別分布状況 (平成22年12月31日現在)



株価および出来高の推移





会社概要（平成22年12月31日現在）

商 号	アトムリビンテック株式会社
創 業	明治36年
設 立	昭和29年10月
事 業 内 容	家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、 住まいの金物全般の企画・開発・販売
主 要 取 引 銀 行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行
従 業 員 数	114名（嘱託6名・パート16名含まず）



役員（平成22年12月31日現在）

代表取締役社長	高 橋 良 一
取 締 役	後 藤 厚
取 締 役	神 原 誠
取 締 役	根 本 博
常 勤 監 査 役	馬 場 敏 雄
監 査 役	岸 田 充 雄
監 査 役	興 水 洋 一

■ ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、
様々なコンテンツをご用意しております。ぜひご覧ください。



事業所一覧（平成22年12月31日現在）

本 社	〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号	TEL 03-3876-0600
アトムC/Dセンター（商品本部）	〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎町1336-4	TEL 048-922-5551
札幌営業所	〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号 井門札幌東ビル1F	TEL 011-748-3113
前橋営業所	〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号	TEL 027-223-2651
広島営業所	〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9	TEL 082-291-4235
アトムCSタワー	〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号 オンデマンド事業部 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館	TEL 03-3437-3673 TEL 03-3437-3440
アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5	TEL 06-6821-7281



関連会社（平成22年12月31日現在）

上海阿童木建材商贸有限公司（中華人民共和国）



シリーズ
企画

アトムCSタワー最前線 FLOOR GUIDE

ギャラリーショップ

KANAGU

作り手と使い手の心をつなぐ「モノ」との出会い

「アトムCSタワー」では、フロアごとにテーマを設け、「住空間の創造」に向けたさまざまな提案を行っております。
このほど、「アトムCSタワー」の“顔”ともいべき1階エントランスを全面的にリニューアルし、
金属雑貨ショップ「ギャラリーショップ KANAGU」をオープンいたしました。
内装金物のパイオニアである当社にふさわしい、本物との出会いにご期待ください。



「ギャラリーショップ KANAGU」は、「住まいの飾り職人」を標榜する当社
が独自の視点でセレクトした、本物志向の金属雑貨ショップです。素材はもち
ろん、デザインや仕上げの細部にいたるまで、職人のこだわりが凝縮された商
品には感動さえ覚えることでしょう。「KANAGU」では、モノづくりに関わる
「モノ語り」を伝えることで、作り手と使い手の心をつなぎ、住まいと暮らしに
温もりと輝きをもたらされることを心から願っております。ショップに足を
運ぶ時間と余裕がない方でも、当社のSNSサイト「インテリアファン」内にあ
ります「TSUNAGU(つなぐ)ウェブギャラリー」で、「KANAGU」で取り扱って
おります商品をご覧くださいことができます。今後とも、「KANAGU」では、皆
様に喜んでいただけるアイテムを取り揃えてまいりますので、お近くにお越
しの際にはぜひ、お立ち寄りください。



■ 銅
美術工芸品や銅像に用
いられる伝統的な着色技
法を応用した、鮮やかな
ターコイズブルーが印象
的な置時計。



■ 真鍮
富山県高岡市から届いた
真鍮の生活用品ブランド
「FUTAGAMI」。使うほど
に独特の味わいを醸し出
します。



■ アルミ
アルミのクールな質感と
職人の手作業による温か
みのあるデザインが楽し
い「アルアート」。

<http://interiorfan.com/tsunagu/>
インテリアファン・
TSUNAGUウェブギャラリー



株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	大阪証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



アトムリビンテック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600 (大代表)
ホームページ <http://www.atomlt.com/>

